

詳細版

厚木市学校教育情報化推進計画(令和9～令和17年度)策定 に関するアンケート結果

～ 教職員編 ～

令和8年9月

厚木市教育委員会 教育研究所

1.アンケート調査の概要 1-2

1.1.調査目的

厚木市における学校教育の情報化に関する方向性及び施策検討に当たり、教職員の意向、ニーズ等を把握することを目的に実施しました。

1.2.調査概要

- ☐ 期間 : 令和8年7月1日～7月31日
- ☐ 方法 : 全校通知(電子回答フォームによる回答)
- ☐ 対象 : 市小・中学校に在籍する正規及び臨時的任用教職員(1,180人)
- ☐ 回答者数 : 769人
- ☐ 回答率 : 65.2%

1.3.設問内容

設問数は20問、内容は次のとおりです。

Q1～3:回答者属性	3
Q4:担当学級(学科)におけるクロームブック使用頻度	4
Q5:授業におけるICT活用に対する満足度	5
Q6:ICT活用による学習効果の評価	6
Q7:授業におけるICT活用目的	7
Q8:ICTを活用した指導力の自己評価	8
Q9:ICT活用に関し必要となる支援	9
Q10:児童・生徒の家庭へのクロームブック持ち帰り状況	10
Q11:家庭学習におけるクロームブック活用の課題	11
Q12:ICT活用による校務効率化の進捗	12
Q13:校務における負担軽減の取組	13
【クロス集計】Q12とQ13の相関関係	14
Q14:校務DXの推進に当たっての課題	15
Q15:児童・生徒の情報モラル・安全面での課題	16
Q16:生成AIの理解度	17
Q17:校務における生成AI活用に関する意向	18
Q18:児童・生徒の学習における生成AI活用の評価	19

Q19:ICT活用において重要視する取組	20
Q20:学校教育の情報化に関する自由意見	21

1.4.本書の見方

- 集計は少数点第2位を四捨五入しており、小数点第1位までで表現しているため、数値の合計が100%にならない場合があります。
- 設問における本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。

1.5.用語

□ クロームブック

国が進める「GIGA（ギガ）スクール構想」に基づき、厚木市が、全ての児童・生徒に配備している「1人1台の学習用パソコン」です。これからのデジタル社会を生きる子どもたちが、主体的に学び、一人ひとりの個性やペースに合わせた「最適な学習」を行えるようにするための取組です。

□ 生成AI

人間の指示に応じて、文章や画像などの「新しい成果物」をその場で自動作成する技術です。従来の検索とは異なり、情報を作るのが特徴ですが、誤情報や個人情報の漏えいには注意して利用する必要があります。

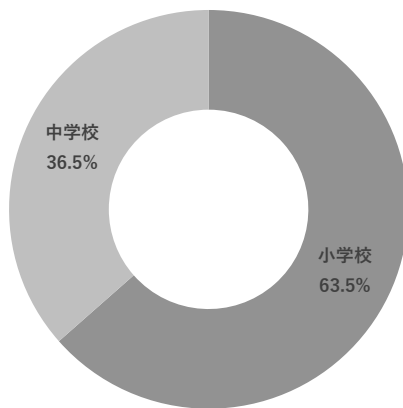
□ 校務DX

校務DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、学校の事務作業やデータ管理の処理について、デジタル技術を活用することで教職員の負担を減らす取組です。これにより、教師が「子どもたちと向き合う時間」を増やすことを目指しています。

2.アンケート調査結果

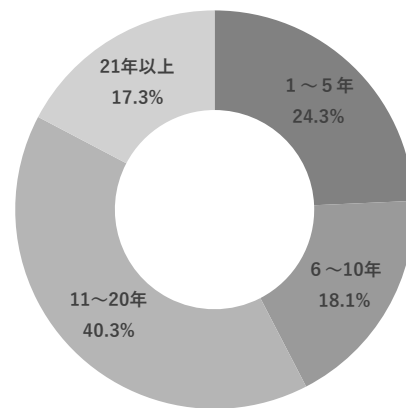
回答者(769人)の属性

【Q1 勤務校種】



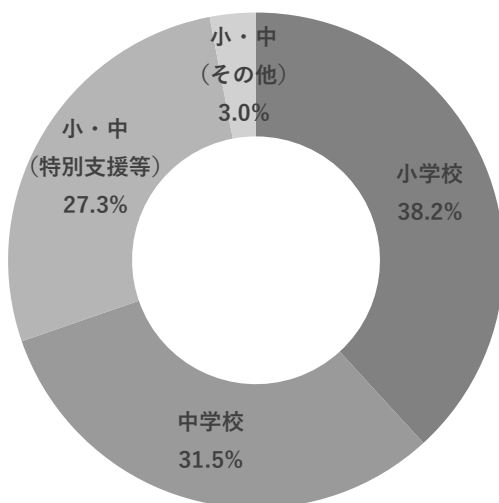
	回答件数	回答割合 (%)
小学校	488	63.5
中学校	281	36.5

【Q2 経験年数】



	回答件数	回答割合 (%)
1～5年	187	24.3
6～10年	139	18.1
11～20年	310	40.3
21年以上	133	17.3

【Q3 担当学年・学級】



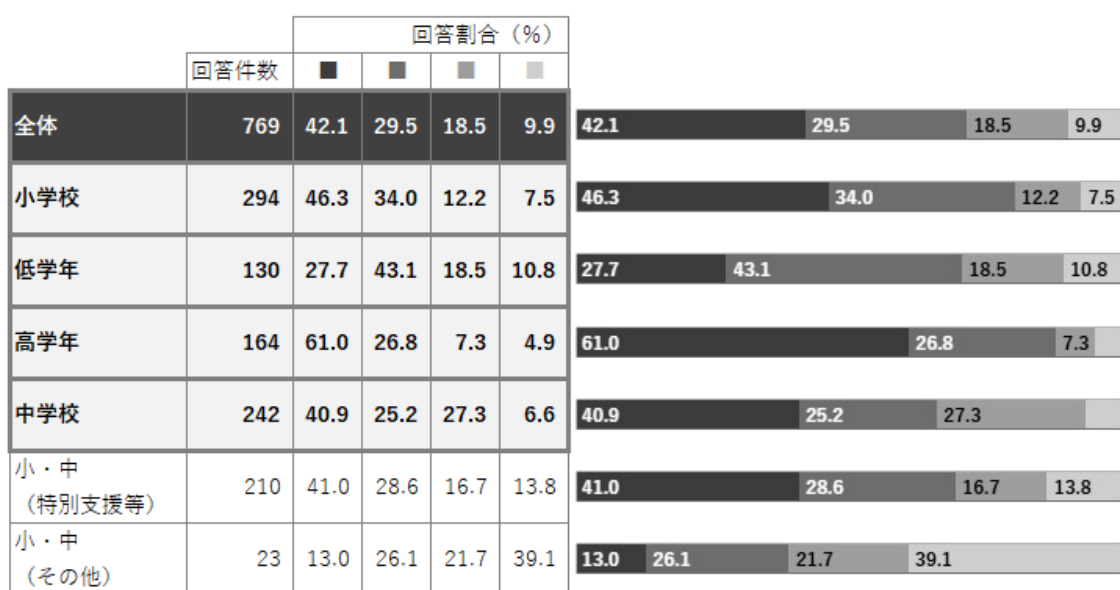
	回答件数	回答割合 (%)
小学校	294	38.2
低学年	130	16.9
高学年	164	21.3
中学校	242	31.5
小・中 (特別支援等)	210	27.3
小・中 (その他)	23	3.0

Q4

あなたが 担当する学級(教科)の授業で、
児童・生徒がクロームブックを使用する頻度 はどの程度ですか。

(単一回答)

- ほぼ毎日
- 週に数回
- 月に数回
- ほとんど使っていない



Q5

授業でのICT(クロームブック以外の機器も含む)活用について、
あなた自身の満足度 を教えてください。

(単一回答)

- ☐ 満足している
☐ どちらかといえば満足している
☐ どちらともいえない
☐ どちらかといえば不満がある
☐ 不満がある

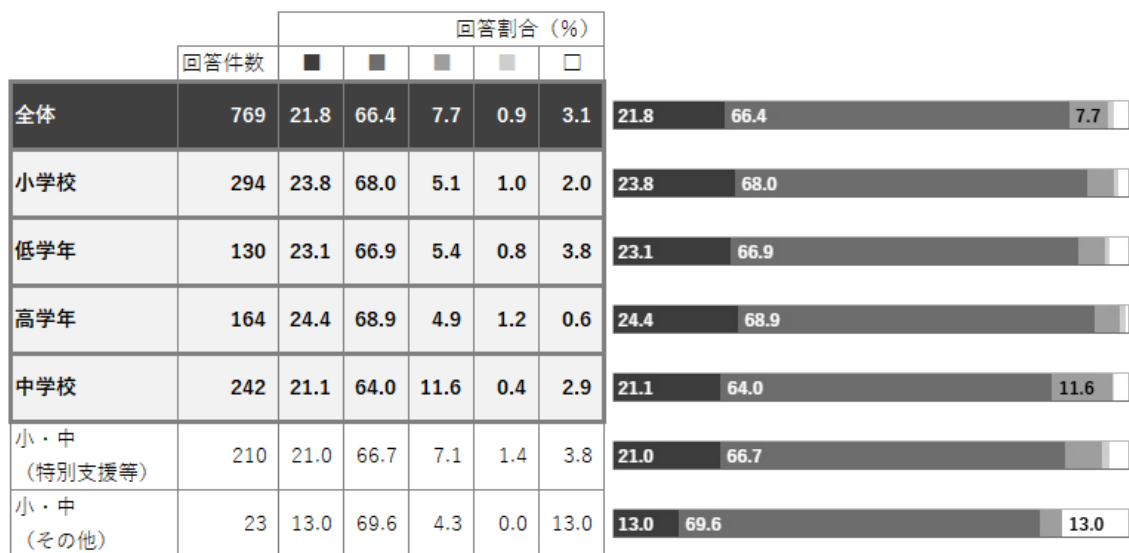
		回答割合 (%)									
	回答件数	■	■	■	■	□					
全体	769	13.9	50.5	29.1	5.5	1.0	13.9	50.5	29.1	5.5	1.0
小学校	294	17.7	53.1	20.1	7.8	1.4	17.7	53.1	20.1	7.8	1.4
低学年	130	13.1	53.8	25.4	6.2	1.5	13.1	53.8	25.4	6.2	1.5
高学年	164	21.3	52.4	15.9	9.1	1.2	21.3	52.4	15.9	9.1	1.2
中学校	242	11.2	51.2	32.2	4.1	1.2	11.2	51.2	32.2	4.1	1.2
小・中 (特別支援等)	210	11.9	47.6	35.7	4.3	0.5	11.9	47.6	35.7	4.3	0.5
小・中 (その他)	23	13.0	34.8	52.2	0.0	0.0	13.0	34.8	52.2	0.0	0.0

Q6

あなたは、ICT（クロームブック以外の機器も含む）活用による学習効果を感じますか。

（単一回答）

- ☐ 大いに感じる
☐ ある程度感じる
☐ あまり感じない
☐ 感じない
☐ 判断できない



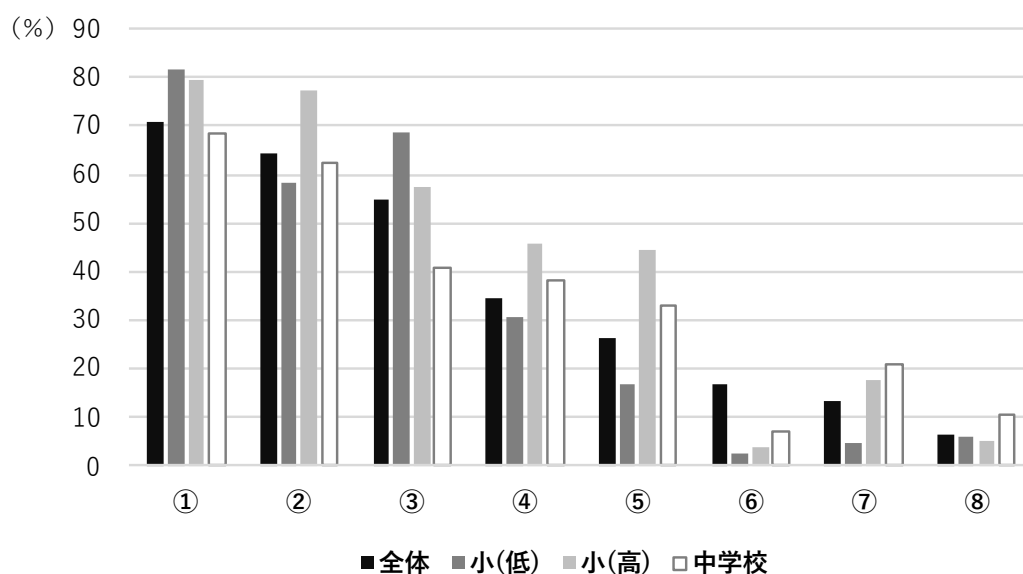
Q7

あなたが、授業でICT(クロームブック以外の機器も含む)

を活用する主な目的は何ですか。

(複数回答)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 教科書・教材の提示 | ⑤ 協働学習(意見共有・共同編集) |
| ② 調べ学習・探究学習 | ⑥ 特別支援教育の支援 |
| ③ 個別学習(習熟度別・反復) | ⑦ 学習状況の把握(小テスト・ログ分析等) |
| ④ 表現活動(プレゼン・動画等) | ⑧ 不登校児童・生徒への学習支援 |

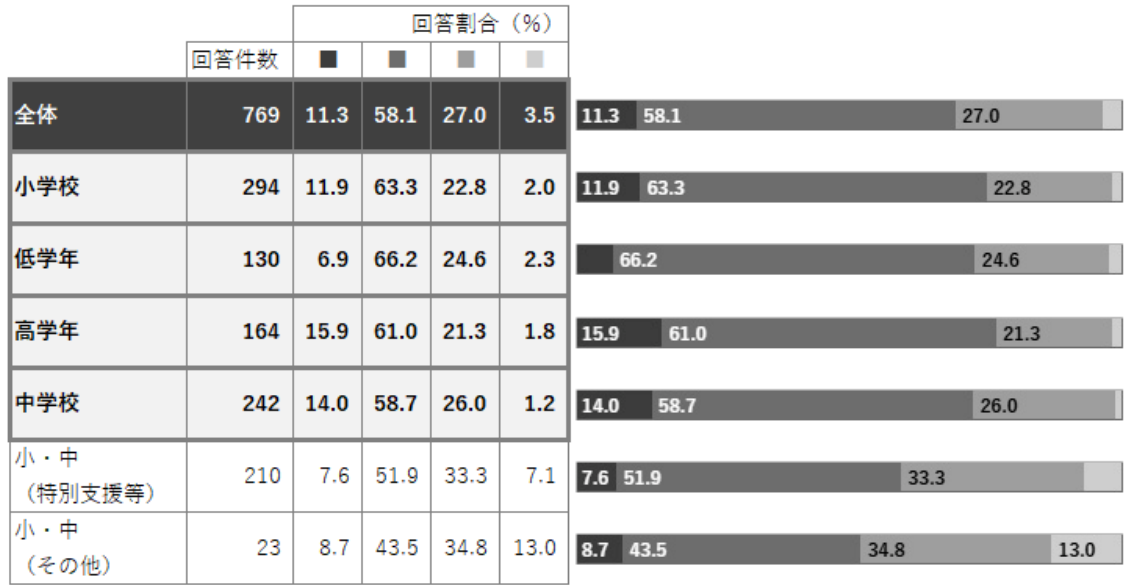


		回答割合 (%)							
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%							
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
全体	769	70.6	64.5	55.0	34.3	26.1	16.8	13.1	6.2
小学校	294	80.3	69.0	62.2	39.1	32.3	3.1	11.9	5.4
低学年	130	81.5	58.5	68.5	30.8	16.9	2.3	4.6	6.2
高学年	164	79.3	77.4	57.3	45.7	44.5	3.7	17.7	4.9
中学校	242	68.6	62.4	40.9	38.0	33.1	7.0	21.1	10.3
小・中 (特別支援等)	210	59.5	61.9	62.9	22.9	9.5	48.6	6.7	3.3
小・中 (その他)	23	69.6	52.2	39.1	39.1	26.1	4.3	4.3	0.0

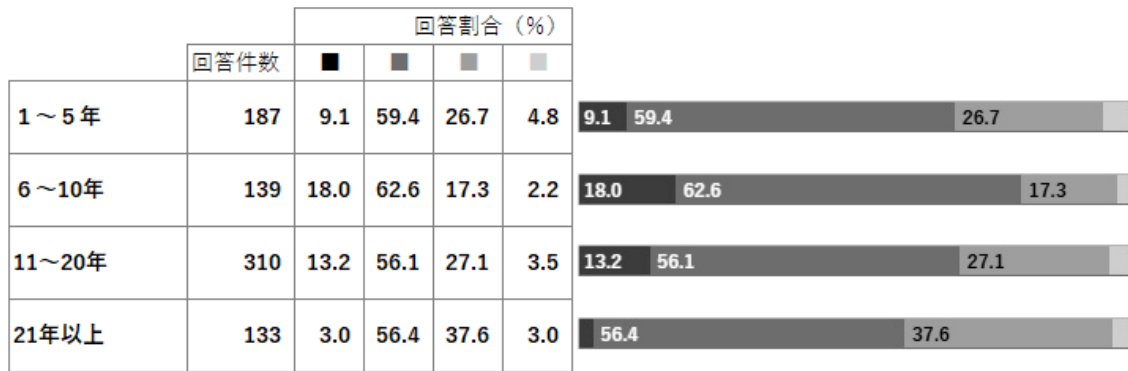
Q8 あなたの ICT活用指導力に関する自己評価 を教えてください。
(単一回答)

- 十分に活用できている
- ある程度活用できている
- あまり活用できていない
- ほとんど活用できていない

【① 担当学年別の回答割合】



【② 経験年数別の回答割合】



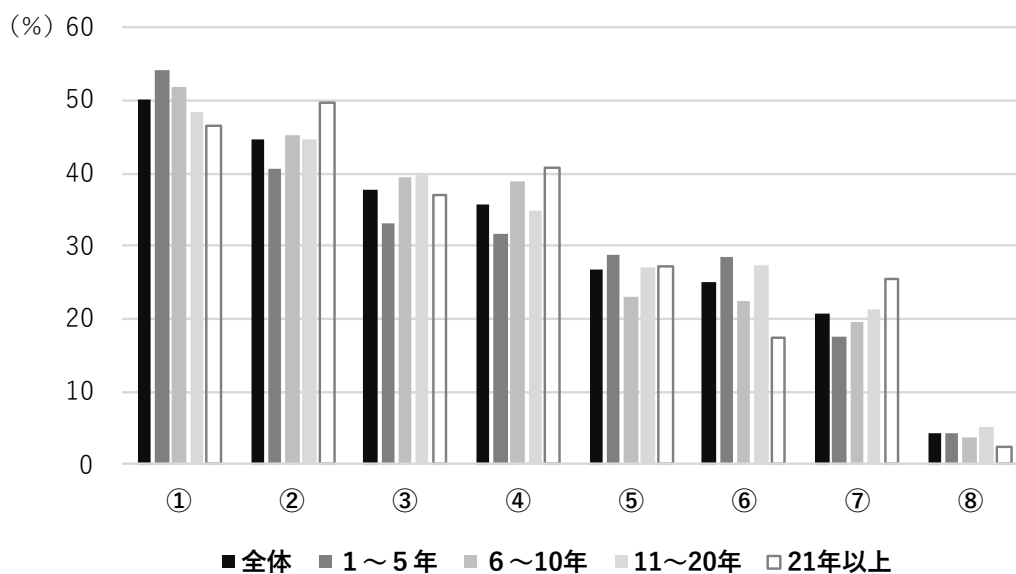
Q9

ICT活用に関して、あなた自身にとって、

特に支援が必要だと感じる内容は何ですか。

(複数回答)

- ① 授業デザイン(ICTを活かした授業づくり) ⑤ 学習ログ等を活用した評価・見取り
 ② アプリ・ツールの操作方法 ⑥ 情報モラル・ネットトラブルへの対応
 ③ 生成AIの利用 ⑦ 特別支援教育におけるICT活用
 ④ 校務DX(文書・成績処理等の効率化) ⑧ 特に必要ない



		回答割合 (%)							
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%							
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
全体 (経験年数)	769	50.1	44.6	37.6	35.8	26.8	25.0	20.8	4.2
1～5年	187	54.0	40.6	33.2	31.6	28.9	28.3	17.6	4.3
6～10年	139	51.8	45.3	39.6	38.8	23.0	22.3	19.4	3.6
11～20年	310	48.4	44.5	39.7	34.8	27.1	27.4	21.3	5.2
21年以上	133	46.6	49.6	36.8	40.6	27.1	17.3	25.6	2.3

Q10

あなたの学級で、児童・生徒のクロームブック持ち帰りは、
現状どの程度 行われていますか。

(単一回答)

- 定期的に学級全体で実施している(ほぼ毎日、毎週○曜など)
- 不定期だが学級全体で実施している
- 持ち帰りを希望する児童生徒のみ実施している
- 夏休み等の長期休業期間のみ実施している
- あまり実施していない
- 実施していない

※ 本設問は、回答者属性を[学級を担任する教職員]に限定しているため、回答者数について、その他設問と相違があります。

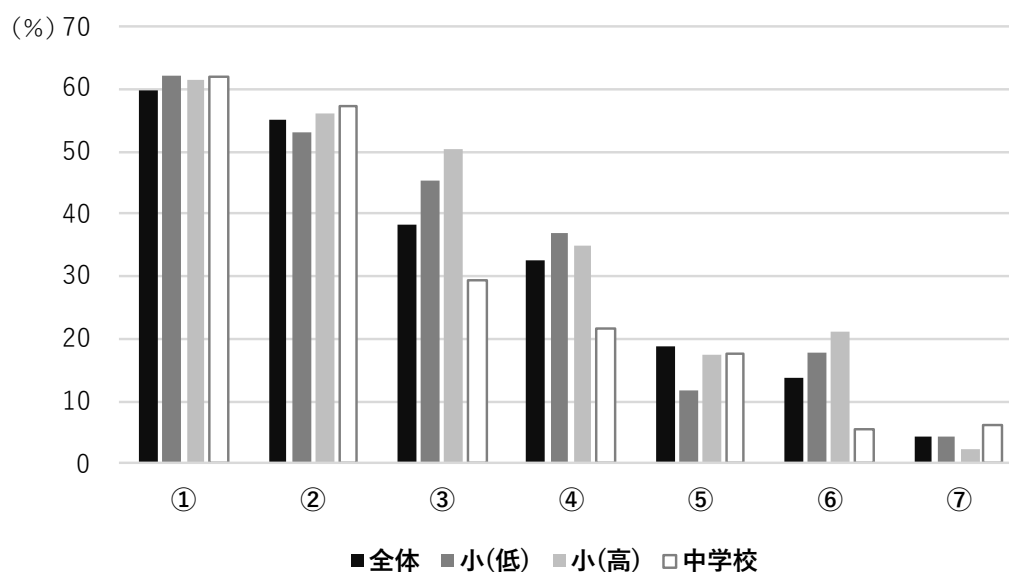
		回答割合 (%)						
	回答件数	■	■	■	■	■	□	
全体	542	40.8	5.7	29.3	10.9	7.0	6.3	40.8 29.3 10.9 6.3
小学校	256	60.9	7.0	7.0	11.7	4.7	8.6	60.9 11.7 8.6
低学年	119	48.7	6.7	4.2	16.0	7.6	16.8	48.7 16.0 7.6 16.8
高学年	137	71.5	7.3	9.5	8.0	2.2	1.5	71.5 7.3 9.5 8.0
中学校	147	19.0	6.1	69.4	2.0	2.0	1.4	19.0 69.4
小・中 (特別支援等)	135	26.7	3.0	28.1	17.8	17.0	7.4	26.7 28.1 17.8 17.0 7.4
小・中 (その他)	4	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0 25.0 50.0

Q11 あなたが考える、家庭学習で端末活用を進める上での課題は何ですか。

(複数回答)

- ① トラブル(破損・紛失)の懸念
- ② 指導上の懸念(ゲーム・SNS等)
- ③ 家庭の通信環境・端末環境の差
- ④ 健康面(視力・姿勢・長時間利用)の懸念
- ⑤ 学習課題の設計が難しい
- ⑥ 保護者の理解・協力が得られにくい
- ⑦ 特に課題はない

※ 本設問は、回答者属性を[学級を担当する教職員]に限定しているため、回答者数について、その他設問と相違があります。



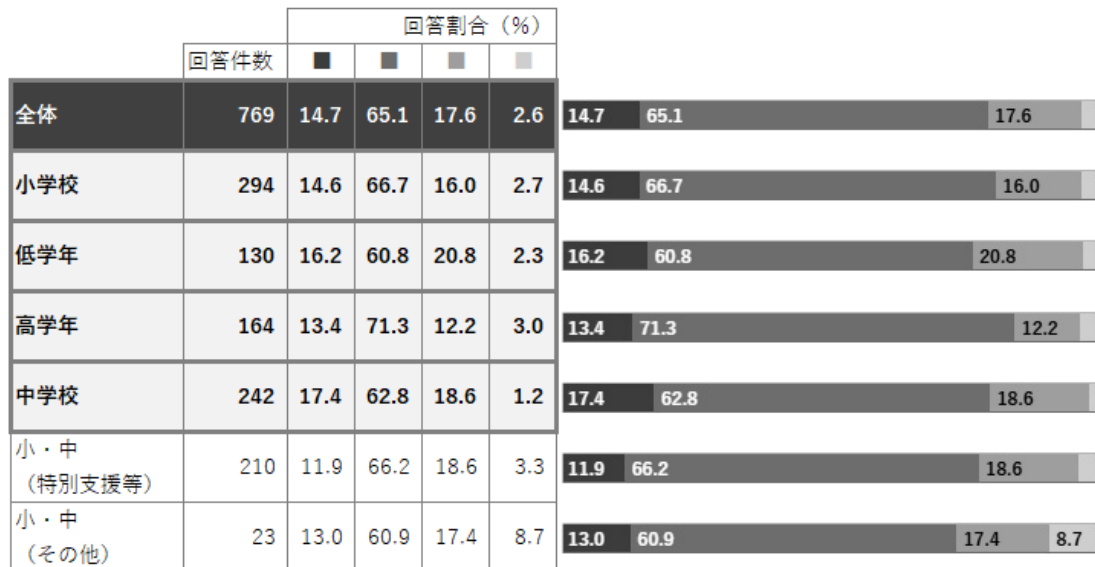
		回答割合 (%)						
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%						
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	542	59.8	55.0	38.4	32.5	18.8	13.8	4.4
小学校	256	61.7	54.7	48.0	35.9	14.8	19.5	3.1
低学年	119	62.2	52.9	45.4	37.0	11.8	17.6	4.2
高学年	137	61.3	56.2	50.4	35.0	17.5	21.2	2.2
中学校	147	61.9	57.1	29.3	21.8	17.7	5.4	6.1
小・中 (特別支援等)	135	54.1	53.3	30.4	37.8	28.1	11.9	5.2
小・中 (その他)	4	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0

Q12

校務でICT(校務用PC、校務支援システム、クロームブック等)を活用することで、あなたが担当する業務の効率化が進んでいると感じますか。

(単一回答)

- 大いに進んでいる
- ある程度進んでいる
- あまり進んでいない
- 進んでいない



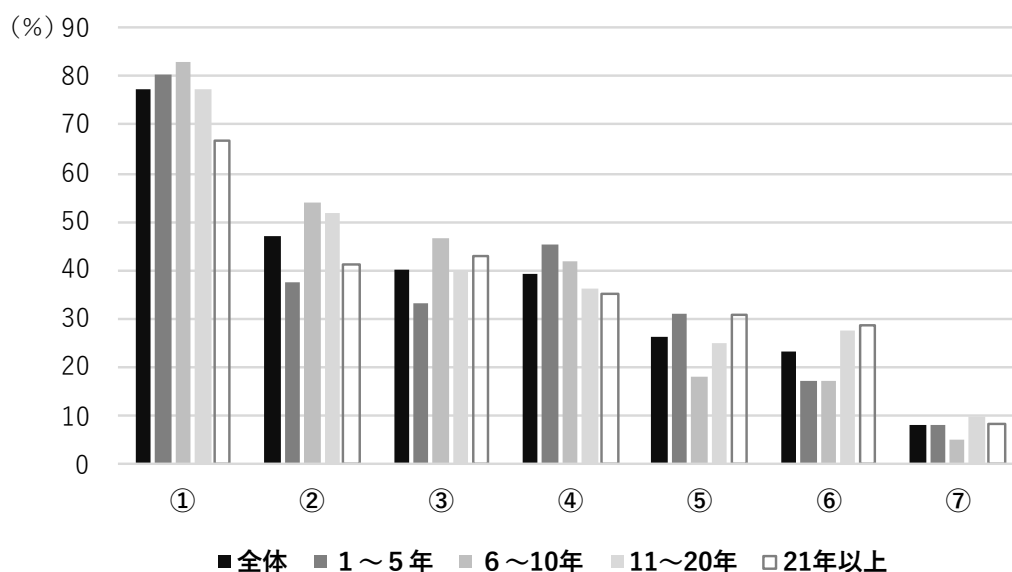
Q13

あなたが 担当する業務において、負担軽減につながっていると感じる

取組 は何ですか。

(複数回答)

- ① 欠席連絡フォーム(Googleフォーム)
- ② 保護者連絡アプリ
- ③ 会議資料のペーパーレス化
- ④ 学習教材の共有・デジタル化
(共有ドライブ利用)
- ⑤ 成績処理・所見作成の効率化
(校務支援システム)
- ⑥ 文書連絡の効率化・ペーパーレス化
(校務支援システム)
- ⑦ 特に負担軽減につながっていない



		回答割合 (%)						
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%						
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体 (経験年数)	769	77.1	46.9	39.9	39.3	26.1	23.4	8.2
1～5年	187	80.2	37.4	33.2	45.5	31.0	17.1	8.0
6～10年	139	82.7	54.0	46.8	41.7	18.0	17.3	5.0
11～20年	310	77.1	51.9	39.7	36.1	24.8	27.7	9.7
21年以上	133	66.9	41.4	42.9	35.3	30.8	28.6	8.3

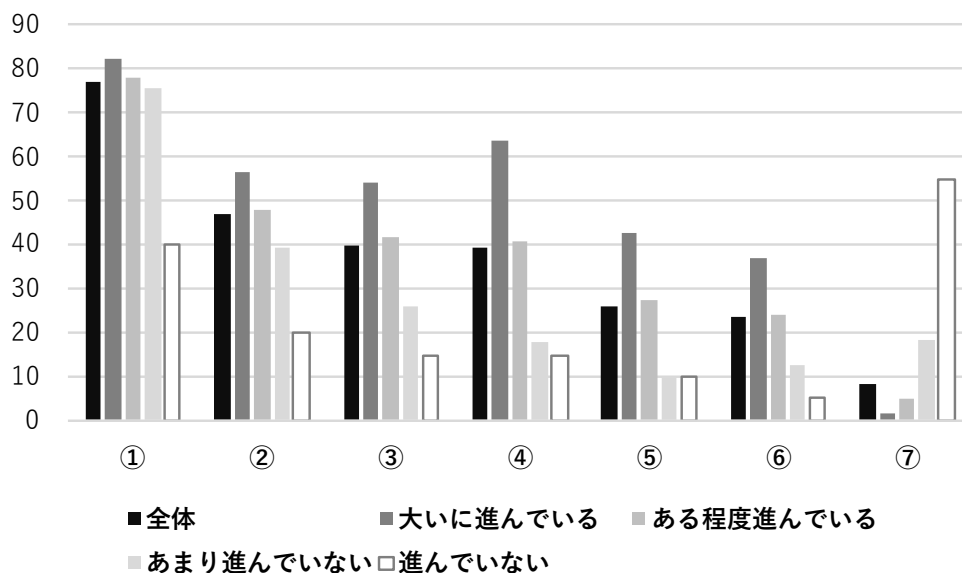
【クロス集計】

Q12とQ13から、

「ICT活用による校務効率化の進捗」と、「校務における負担軽減の取組」

との関係性を整理したところ、次の結果となりました。

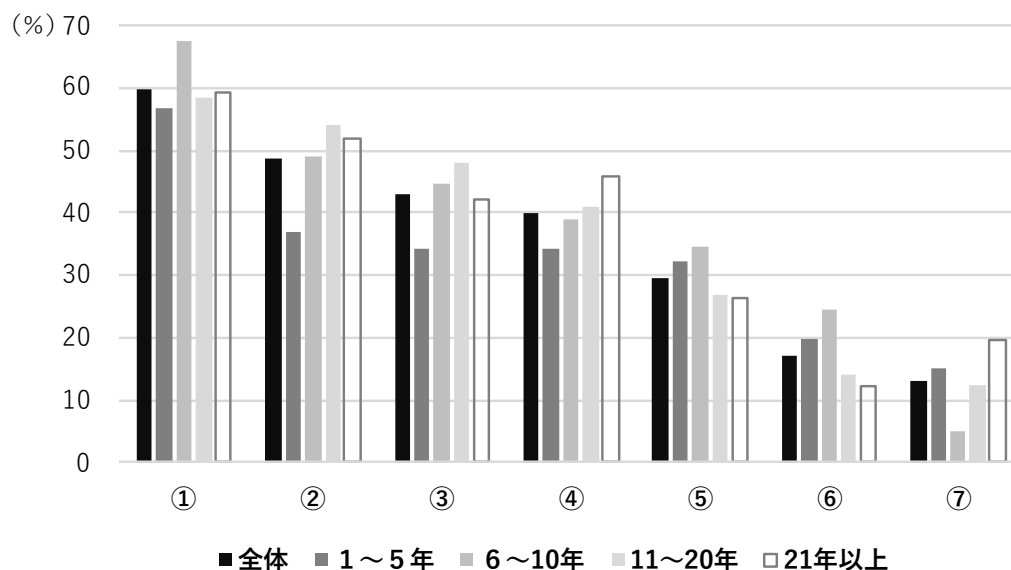
- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 欠席連絡フォーム(Googleフォーム) | ⑤ 成績処理・所見作成の効率化 |
| ② 保護者連絡アプリ | (校務支援システム) |
| ③ 会議資料のペーパーレス化 | ⑥ 文書連絡の効率化・ペーパーレス化 |
| ④ 学習教材の共有・デジタル化 | (校務支援システム) |
| (共有ドライブ利用) | ⑦ 特に負担軽減につながっていない |



		回答割合 (%)						
		※ Q13各選択肢の回答件数をQ12回答数で除算						
Q12の回答件数		Q13の回答選択肢						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	769	77.1	46.9	39.9	39.3	26.1	23.4	8.2
大いに進んでいる	113	82.3	56.6	54.0	63.7	42.5	37.2	1.8
ある程度進んでいる	501	77.8	47.9	41.5	40.5	27.5	24.0	5.0
あまり進んでいない	135	75.6	39.3	25.9	17.8	9.6	12.6	18.5
進んでいない	20	40.0	20.0	15.0	15.0	10.0	5.0	55.0

Q14 あなたが 校務DXを進める上で、特に課題 となっていることは何ですか。
(複数回答)

- ① 教職員のICTスキルに差がある
- ② 校務支援システムの使い勝手が悪い
- ③ セキュリティ制約で作業がしにくい
- ④ ネットワークや端末が不安定
- ⑤ 紙業務が残り二重運用になっている
- ⑥ 運用ルールが統一されていない
- ⑦ 時間が確保できない



		回答割合 (%)						
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%						
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体 (経験年数)	769	59.8	48.6	43.0	39.8	29.4	17.0	12.9
1～5年	187	56.7	36.9	34.2	34.2	32.1	19.8	15.0
6～10年	139	67.6	48.9	44.6	38.8	34.5	24.5	5.0
11～20年	310	58.4	54.2	48.1	41.0	26.8	14.2	12.3
21年以上	133	59.4	51.9	42.1	45.9	26.3	12.0	19.5

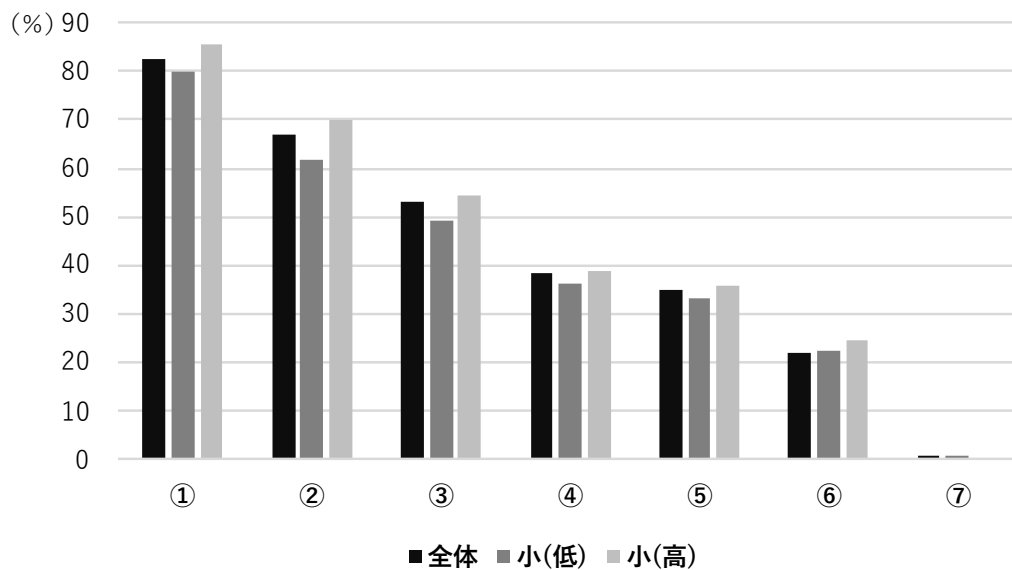
Q15

児童・生徒の情報モラル・安全面で、あなた自身が

特に課題 だと感じることは何ですか。

(複数回答)

- ① SNSトラブル(誹謗中傷・いじめ)
- ② 長時間利用・依存
- ③ 個人情報の取り扱い
- ④ 著作権の理解不足
- ⑤ フェイクニュース・誤情報
- ⑥ フィルタリングの運用
- ⑦ 特に課題はない



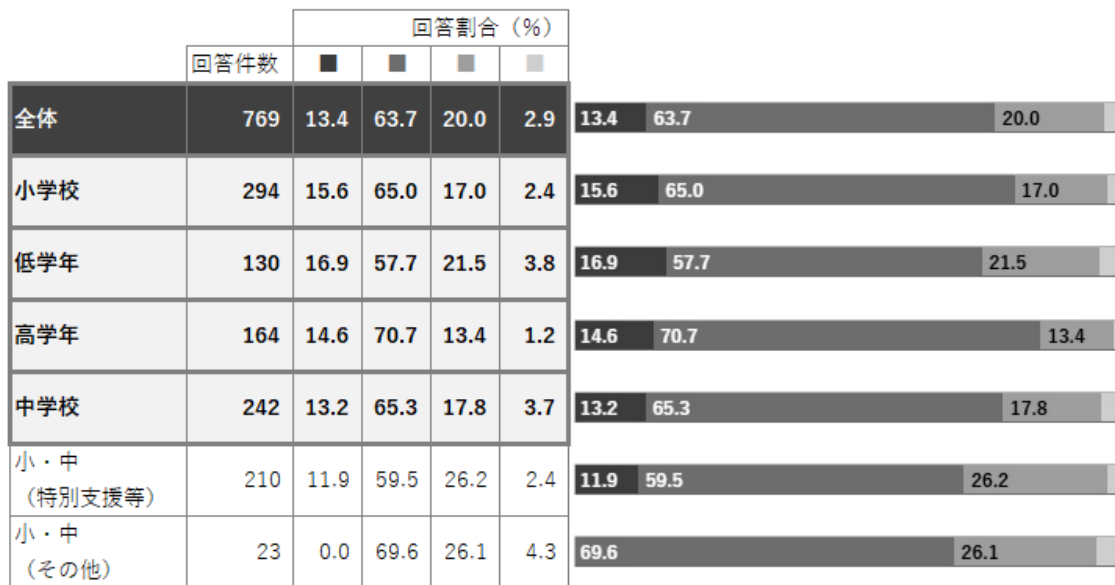
		回答割合 (%)						
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値 ≠ 100%						
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全体	769	82.6	67.1	52.9	38.4	34.7	21.8	0.9
小学校	294	83.0	66.3	52.0	37.8	34.7	23.5	0.3
低学年	130	80.0	61.5	49.2	36.2	33.1	22.3	0.8
高学年	164	85.4	70.1	54.3	39.0	36.0	24.4	0.0
中学校	242	83.1	64.9	57.9	40.9	31.0	21.5	1.2
小・中 (特別支援等)	210	81.4	70.5	50.5	38.1	40.0	19.5	1.0
小・中 (その他)	23	82.6	69.6	34.8	21.7	26.1	26.1	4.3

Q16 生成AI について、あなた自身の理解度 を教えてください。

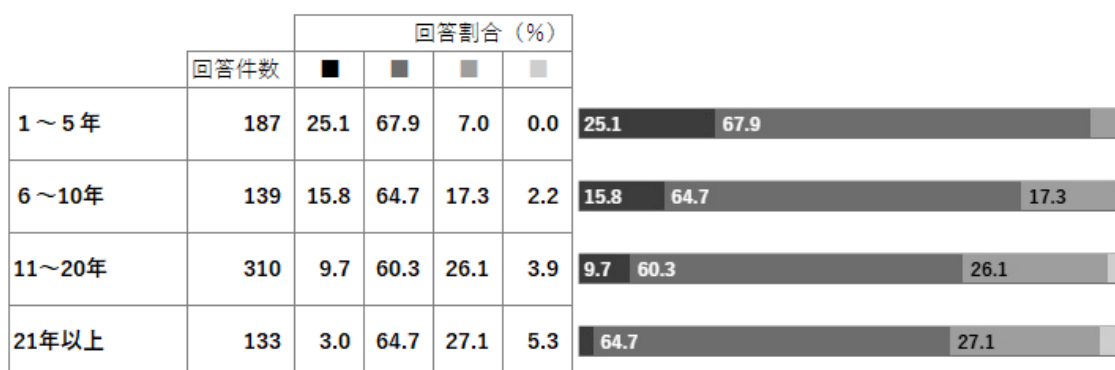
(単一回答)

- よく理解し、活用している
- ある程度理解している
- 名前はよく知っているがよく分からない
- 知らない／ほとんど理解していない

【① 担当学年別の回答割合】



【② 経験年数別の回答割合】



Q17

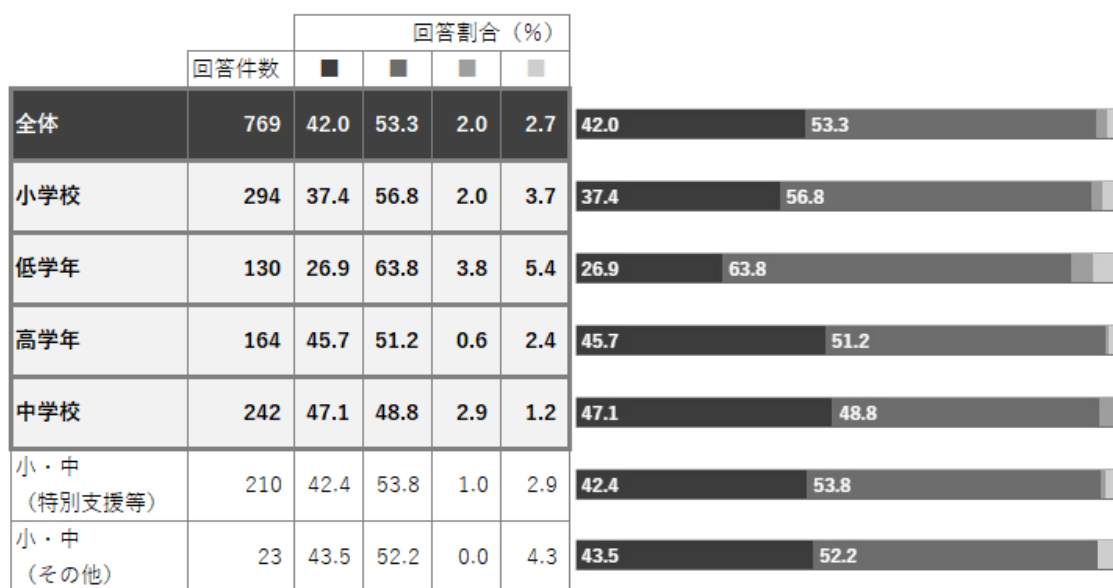
教職員が校務において、生成AIを活用すること

について、あなたの考えに近いものを選んでください。

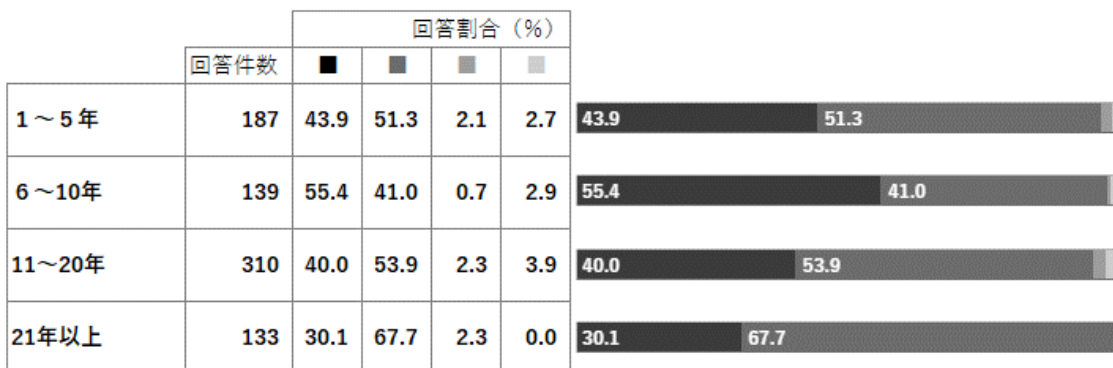
(単一回答)

- 積極的に活用を進めるべき
- 慎重に進めるべき
- 活用すべきではない
- わからない

【① 担当学年別の回答割合】



【② 経験年数別の回答割合】



Q18

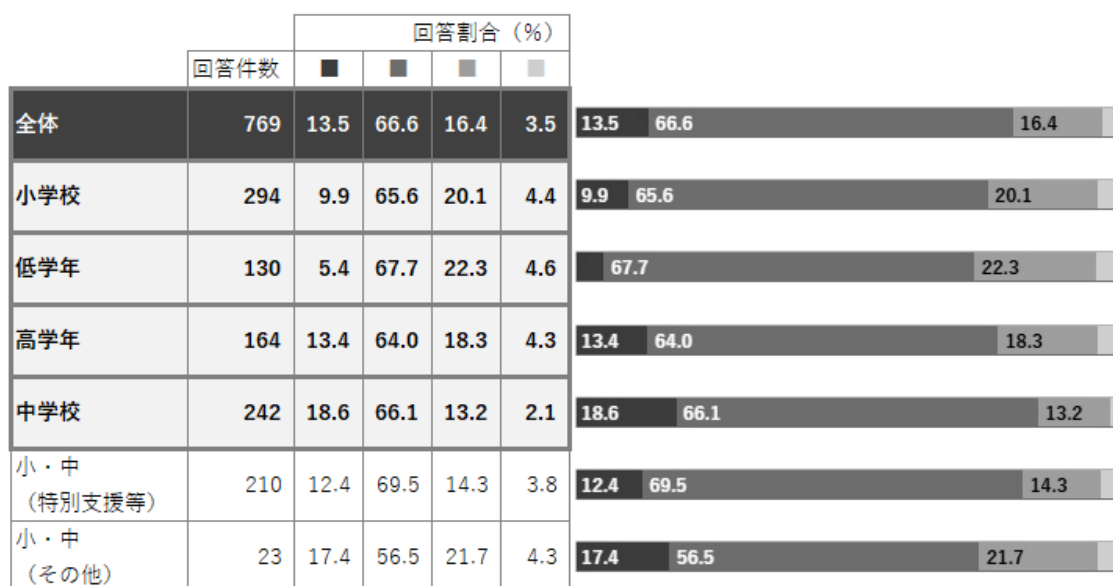
児童・生徒が学習において、生成AIを活用すること

について、あなたの考えに近いものを選んでください。

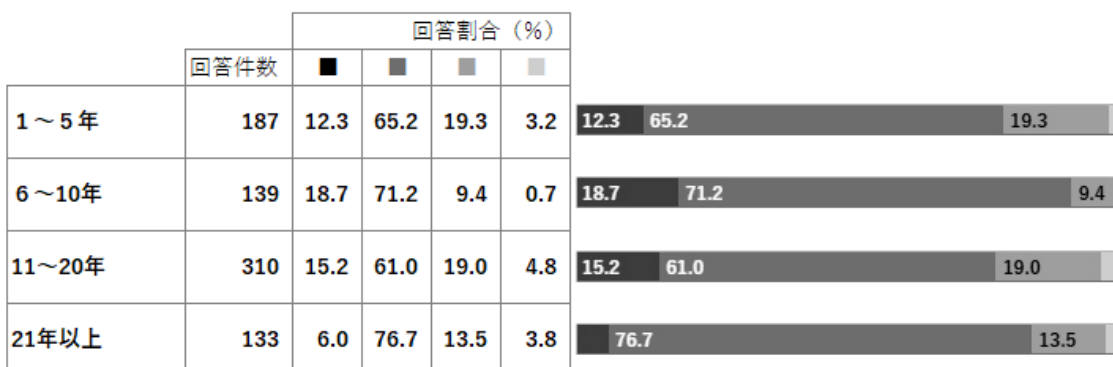
(単一回答)

- 積極的に活用を進めるべき
- 慎重に進めるべき
- 活用すべきではない
- わからない

【① 担当学年別の回答割合】



【② 経験年数別の回答割合】



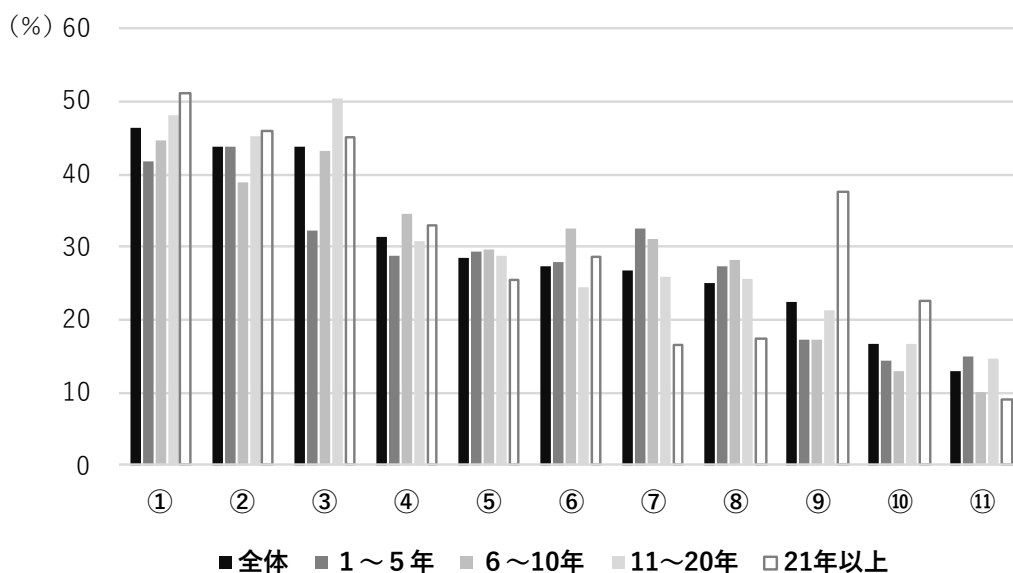
Q19

今後、学校ICTの分野で、市が特に力を入れるべき取組

は何だと思いますか。

(複数回答)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ① デジタル教材・学習ツールの充実 | ⑦ ICTを活用した授業改善(モデル校等) |
| ② ネットワークの安定化・高速化 | ⑧ 生成AIの利用促進 |
| ③ 校務DXの推進(業務削減) | ⑨ ICT支援員の充実 |
| ④ 端末の更新・性能向上 | ⑩ 不登校児童・生徒へのICT活用支援 |
| ⑤ 情報モラル教育の充実 | ⑪ セキュリティ対策の強化 |
| ⑥ 教職員ICT研修の充実 | |



		回答割合 (%)										
		※ 複数回答設問のため、横軸の合計値≠100%										
	回答件数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
全体 (経験年数)	769	46.4	43.8	43.7	31.3	28.5	27.4	26.8	25.0	22.4	16.5	12.9
1～5年	187	41.7	43.9	32.1	28.9	29.4	27.8	32.6	27.3	17.1	14.4	15.0
6～10年	139	44.6	38.8	43.2	34.5	29.5	32.4	30.9	28.1	17.3	12.9	10.1
11～20年	310	48.1	45.2	50.3	30.6	28.7	24.5	25.8	25.5	21.3	16.8	14.5
21年以上	133	51.1	45.9	45.1	33.1	25.6	28.6	16.5	17.3	37.6	22.6	9.0

本設問につきましては、166件の回答がありました。
一部回答を抜粋して掲載します。

- 子どもたちが、情報について正しく理解し、正しく使えるようにすることが、情報化を進めるうえでの大前提であると考えます。
- これからの時代は生成A Iがあるのが当たり前の時代になるので、どう活用するのか、活用するときに気を付かなければならないことを学ぶ必要があると思います。生成A Iに聞くだけでなく、生成A Iとともに考えられるような使用方法ができるといいなと思います。一方で、学習には、やはり書く力をつけさせたいです。教育推進国では学力低下から紙媒体に戻しているときもあります。教科書は紙がいいです。視力低下の問題もあるので読み物などは、紙のままがいいです。紙媒体のよさも残しつつ、必要なことは取り組んでいくのが大事かと思いました。
- 情報化について、様々な支援を学校は受けており、大変ありがたい環境だと感じています。ありがとうございます。今後、セキュリティ対策や生成A Iを含めた新たな技術の活用の危険性についての理解を広げながら、特定の業務について、例えば、活用につながる事例の共有、使用可能なアプリケーション等の共有（文書チェック等事務作業補助、時間割作成、データソースから質問に答えるボット）などが進んでいくと活用の幅が広がると感じております。
- 最大の課題は、現場の「教員の意識」にあると感じています。新しい技術への躊躇や古いやり方への固執から、I C Tや生成A Iを遠ざけようとする空気が一部にあります。これらはこれからの時代に必要不可欠なものです。教員の意識改革を進めるためにも、例えば「週に1回でも、I C Tや校務D Xについて学び合い、触れてみる時間」を組織として確保することを提案します。この時間を市が主導して保証くだされば、教員が安心して新しい選択肢を取り入れることができ、結果として大幅な働き方改革（校務の効率化）へと繋がります。教師が心と時間のゆとりを持って新しい挑戦を楽しみ、笑顔で生徒と向き合う姿を示すこと。その大人の背中こそが、生徒たちが未来を生きる上での「新しい当たり前」の道標になります。市におかれましても、現場の教員が前向きにマインドを変えられるよう、具体的な時間の確保を含めた持続可能な

環境づくりを強く期待します。

- 職員が業務上ＩＣＴを活用した方が効率的に仕事を進められるなら、必要だと感じる場面において活用すればよいと感じる。生徒に使わせるのは非常に有効と感じる。しかしながら、同時に危険性についての指導も行なっていく必要があると感じる。学校から貸し出ししている端末のことだけではなく、「情報」を取り扱う上での注意事項など、定期的に伝えられるようなことが必要になっていると感じる。
- システムなどはどんどん改善していったほしいが、教職員が新しいことを覚えて活用していくことと並行してＩＣＴの専門家を学校に常駐させて、教員免許が不要な事務的なＩＣＴの活用場面を担ってほしい。今までもシステムが新しくなってとても助かっているが、授業内容や児童・生徒への対応も時代に合わせて対応していかなければいけない中で、ＩＣＴのシステム更新に対応していくことが難しく感じる。
- 情報化されることで作業効率は上がっていると感じるが、そもそもの業務量が多いことや教員によって仕事量にも大きな差があり、根本的な課題が多い。全教員の働き方を分析して効率の良い作業の進め方や分担をコンサルティングするような使い方に期待したい。
- 情報が教育課程に組み込まれることへの危機感と期待。世界的に課題になっているが、子どもがＳＮＳを使用することに対して、どれだけ規制しても好奇心多感な時期では難しさがある。家庭（保護者）への情報モラルの徹底を同時進行で行う必要がある。
- 現状では情報検索の際、生成ＡＩに自動的に誘導されてしまうことを考えると、児童生徒に使用を制限することでデジタルシティズンシップを教える機会を逃しているように思う。こどもたちの認知段階では、説明だけでなく実際に使ってみることが教育の効果に非常に影響する。ぜひ、厚木市でもこどものＡＩ使用を解禁し、学ぶ場を作るべきだ。